小菅 柱松行事（はしらまつぎょうじ）

柱松行事（柱松柴灯（さいとう）神事）は、別名「松子（まつこ）」とも呼ばれており、かつては毎年7月15日行われていました。昭和43年からは3年に1度の開催となり、現在は7月中旬の日曜日に行われるようになりました。

講堂前祭式場で行われる神事では、雑木を山ブドウの蔓で束ね、上部には杉の生枝、桂、尾花で飾られた高さ4㍍の柱松が、上（東）と下（西）の2基立てられ、上の柱松には天下泰平、下の柱松には五穀豊穣の願がかけられます。

ひうち石とひうち金を使って、どちらの柱松の尾花に先に火がつくかを競うこの神事は、豊作祈願に併せて、修験者の験くらべである真言護摩修法の行事を今に伝えられたと言われており、文化財として大変貴重なものです。（平成23年3月国重要無形民俗文化財指定）

神事には、くねり山伏（松太鼓手）、山姥（仲取）、松神子、松子若衆など様々な登場人物がおり、護摩堂から祭場までの行列や、小菅神社里宮本殿からの神輿など多くの見どころがあります。

小菅案内図

○車で…（小菅地区　講堂付近まで）

飯山駅から　約 20 分（バス利用の場合、関沢バス停まで 25 分）
豊田飯山 IC から　約 30 分
戸狩野沢温泉駅から　約 10 分

○徒歩で…（小菅地区　講堂付近まで）

路線バス野沢線 関沢バス停から　約 1.5km（高低差約 165 m）
戸狩野沢温泉駅から　約 4.6km（高低差約 185 m）

信州
飯山
Iiyama City
Nagano,Japan

小菅
Kosuge
Nationally Importent Cultural landscape

小菅神社 奥社本殿
Kosuge Shrine Okusya Honden

2016.3

小菅の歴史

かつての小菅神社は、新義真言宗に属する小菅山元隆寺（がんりゅうじ）といい、戸隠や飯綱と並ぶ北信濃の三大修験場として繁栄しました。来由記によると、修験道の祖、役小角（えんのおづぬ）が白鳳８（680）年に小菅山を開山し、その後、大同年間（806～810）に坂上田村麻呂が八所権現本宮や加耶吉利堂を再建し、小菅山元隆寺を創建したことが小菅神社の起源とされています。小菅権現（摩多羅神）を祀り、熊野、金峰（吉野）、白山、立山、山王、走湯、戸隠の七柱の神々を観請して、八所の宮殿を祀ったという小菅山では、平安時代後期に熊野修験が入り込んで、小菅山の確立に寄与しました。

戦国時代に入ると、信濃全域が上杉氏と武田氏の争いの舞台となります。小菅山一帯は、上杉氏の庇護下に置かれ、上杉謙信は武田信玄との合戦の際、必勝祈願の願文を捧げています。しかし繁栄を極めた小菅山も、永禄10（1567）年の川中島の戦いでは、武田氏の進攻により元隆寺本堂を除く堂塔はことごとく焼失したとされています。その後、情勢が安定すると奥社本殿は再建されました。

江戸時代になると、杉並木や宗教建築の多くが整備され、霊場としての小菅の統治は、寺院の手から里人の手に徐々に移りました。明治時代になると、神仏分離によって、大聖院別当職が神職に就き、小菅社八所大神となり、明治33（1900）年に小菅神社と改称しています。

現在でも建物や石垣の遺構、文化財や人々の生活などに当時の隆盛を見ることができます。平成27年1月26日には、「小菅の里及び小菅山の文化的景観」が国重要文化的景観に選定されました。

History of Kosuge

Long ago, Kosuge Shrine prospered as Kosugesan Ganryuji Temple, one of the three major religious training areas for mountaineering asceticism in Northern Shinano (Nagano).

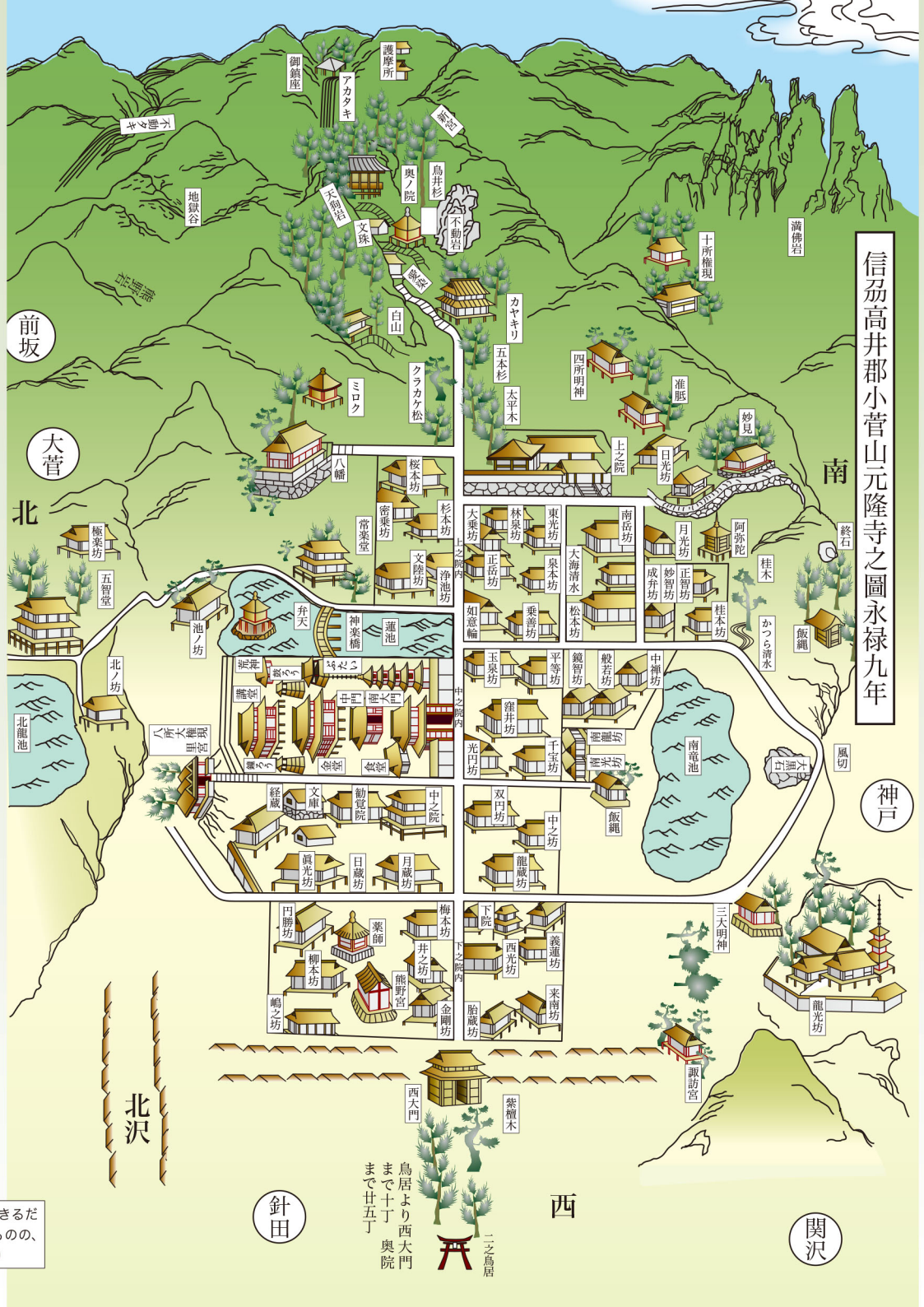
According to records, Mount Kosuge was founded in 680 A.D., by the great founder of mountaineering asceticism, En no Ozunu. The foundations of Kosugesan Ganryuji Temple were said to have been laid by Sakanoue no Tamuramaro, who rebuilt the facilities during 806~810 A.D.

During the Warring States Period (15th~16th Century), the whole of Shinano prefecture (known today as Nagano) was the stage for Samurai warlords Kenshin Uesugi and Shingen Takeda‘s battles.

Uesugi‘s rule encompassed the entire Mount Kosuge area, and he conducted prayers for victory in his battles against Takeda at Mount Kosuge. However in the Kawanakajima Battle of 1567, Takeda‘s troups attacked and burnt down all of the prospering facilities in Mount Kosuge, all exempting the Ganryuji Hondo Main Hall.

Much later, when the situation was stable, the Okusha Honden Shrine Main Hall was reconstructed.

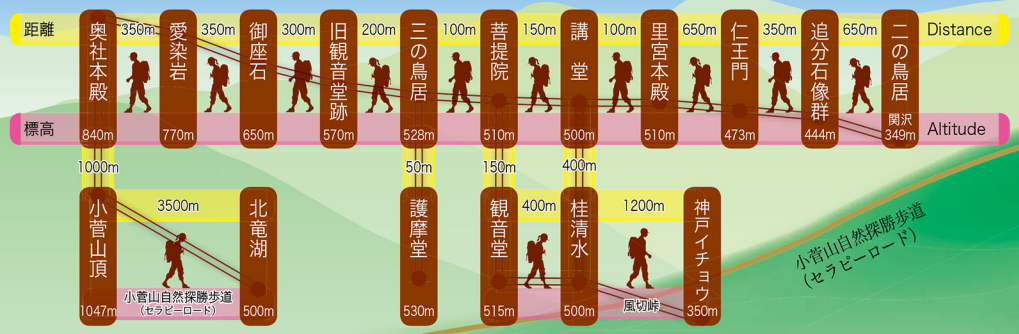
Maintenance of the religious facilities began in the Edo Period (17th Century), as the governance over the sacred location gradually shifted from the temple to the villagers.



この絵図は、「信州高井郡小菅山元隆寺之図永禄九年」を基に、できるだけ忠実に作成したものです。元図は、史実と異なる部分はあるものの、当時の繁栄を後世に伝える重要な資料です。（永禄９年＝ 1566 年）

小菅（長野県 飯山市 瑞穂地区）
Kosuge（Mizuho, Iiyama City, Nagano Pref）

Nationally Importent Cultural Iandscape
小菅の里及び小菅山の文化的景観 地域の風土と住民の生活や生業によって形成された景観地。水の利用、石積みによる地割、信仰と生業の歴史を持つ里山が特徴。平成２７年１月に国重要文化的景観に選定される。



Mt.Kosuge
小菅山（標高1047m）

女神の森（ブナ林）

Tsutsumi Iwa(rock)
鼓岩 奥社後方の巨岩に深さ数10センチの小窟があり、手を打つと小鼓の音が響くとか。

Fudou Iwa(rock)
不動岩 弘法大師が筆を投げて岸壁に梵字を書いたとされ、投げた場所には注連縄が張られている。深い沢の向こうに不動岩が見え、不動岩の中腹に不動明王が置かれている。

Gama Ishi(stone)
蝦蟇石 ガマガエルに良く似た石。

Kagami Ishi(stone)
鏡石 鏡のように平らな鏡石と鐙石、隠れ石、御座石、船石の５つの石の他に、現在存在が不明の御割石、大黒石、臥象石を合わせて「七木八石」とされている。

Funa Ishi(stone)
船石 大海の波頭に船が浮かんでいるようだと言われたことから船石と呼ばれる。

Aizome Iwa(rock)
愛染岩 岩の下に恋愛成就の願いをかなえる愛染明王が祭られている。

Kakure Ishi(stone)
隠れ石 川中島合戦の際上杉謙信が追手から隠れたとされる石。信玄は小菅の里まで追って来たが、山鳴りと共に突然大岩が崩れ落ち、大木が倒れて来たため、小菅権現の神威に恐れをなし、逃げ帰ったと言われている。

Goza Ishi(stone)
御座石 役行者や弘法大師が参拝の折に座ったという「御座石」。小さなくぼみは、持っていた杖の先がめり込んだものと言われている。参道の途中には坂上田村麻呂が再建したという加耶吉利（かやきり）堂跡がある。

Abumi Ishi(stone)
鐙石 岩の側面に鐙型のくぼみがあるため「鐙石」と呼ばれている。鐙（あぶみ）とは、鞍の両脇に垂らす、足を掛けるための馬具のこと。

Kosuge shrine Okusya honden
小菅神社奥社本殿 来由記によると白鳳８（680）年修験道の祖、役小角の創建となっている。小菅神社の祭神８柱を祀る本殿と附属宮殿は室町時代中期のものである。（S39（1964）国の重要文化財指定）建物は、北面に岩窟を背負って建てられており、西側の階段から社殿に上るようになっている。本殿の中には甘露池があり、この池がまず信仰の対象になったのではないかと言われている。上杉謙信が川中島出兵の折、必勝祈願の願文を捧げており、新潟県にも崇拝者が多い。ご本尊は馬頭観音だが、特別な日以外は建物の中に入ることはできない。

Bodaiin Temple
菩提院 かつては小菅神社の別当寺である小菅山元隆寺大聖院の一坊桜本坊。川中島の戦いの兵火により焼失し上杉氏によって再建、享保年間に法印俊栄によって中興開基し菩提院と改称している。明治時代の廃仏毀釈の際により大聖院が廃寺（小菅神社に移行）となり寺宝、仏式諸道具などが菩提院に移された。寺宝には室町時代初期に制作された絹本著色曼荼羅図（県宝）の他、江戸時代に制作された紙本著色涅槃・極楽・地獄絵図と紙本著色十六善神画像があり市指定有形文化財に指定されている。

Bodaiin Temple Kannondou
菩提院観音堂 信濃三十三番観音霊所第十九番札所となっている。かつては小菅山の中腹にあったが現在の場所に移され、菩提院の管理となってる。

Hokuryuko no yakata
北竜湖の館 平成８年に整備された体験施設。施設内におみやげコーナー、ギャラリーなどがある。

Hokuryuko(pond)
北竜湖 古くは早乙女たちが手を洗う場所であるとして早乙女池と呼ばれた。江戸時代に湖の規模が現在の姿に拡大。オス・メスの竜が南龍池と北竜湖に棲む伝説があり北竜池という名称が付けられた。1961年(昭和36年)、北竜湖へと改名。

北竜湖観音

北竜湖 資料館

Iiyama Hokuryu Onsen Hot Spring Bunka Hokuryukan
いいやま北竜温泉 文化北竜館

七福神

コエンド

Koudou
講堂 かつては元隆寺の中之院に属しており、付近には、南大門、中門、金堂などが建っていたが、戦国時代の武田氏の侵攻でほとんどが焼失してしまった。現在の講堂は1697年に飯山城主の松平氏によって修復された。中には阿弥陀三尊像が安置されている。

内山用水路

旧観音堂跡

三の鳥居

しだれ桜

御食事・休憩 浅葉野庵

護摩堂

大聖院代々の墓

大聖院跡碑

下馬碑

Suginamiki(Row of Cedars)（長野県天然記念物）
杉並木 180本もの杉の大木が約800mにわたって並木を作っており、樹齢は300年と言われている。奥社参道も含め、地区の住民の「おてんま」共同作業によって整備されている。

六地蔵

文化財収蔵庫

御旅所

Mikoshiden
神輿殿

Shinsensho
神饌所

WC

Hasu Ike(pond)
蓮池

Ruins of a Daisyouin / Gomadou
大聖院跡・護摩堂 最盛期には、上の院16坊、中の院10坊、下の院11坊、合計37坊を有し、10の末院、6社、5堂が立ち並び、修験、山伏、僧侶が300人いたとも言われている元隆寺。その別当職をしていたのが元隆寺別当大聖院である。明治２（1869）年に廃絶となり、昭和に建物も全て取り壊され、跡地に記念碑が建てられている。見事な石垣は「大聖院石垣」と呼ばれ、江戸時代末期、お台場を築いた地域の職人が造ったもの。大きな石を使った梅鉢積みが素晴らしい。
大聖院の跡地へ1750年に再興された護摩堂脇では、柱松行事の出発点のほか、火口焼きの神事も行われる。

Kosuge shrine Satosha honden
小菅神社里社本殿 石段を上った先に神楽殿（拝殿）、右手に柱松柴灯神事で担ぎ出される神輿が納められている神輿殿、左手に神馬殿が建っている。1660年に飯山城主の松平忠倶によって改築され、現在の建物は大正12（1923）年に大きく改修されている。

Shinbaden
神馬殿

Kaguraden
神楽殿

しだれ桜

社務所

Manyouka Monument
万葉歌碑

Ginkgo-tree in Goudo（長野県天然記念物）
神戸のイチョウ 胸高14m、樹高31m余り、県下有数の巨木で樹齢は千数百年といわれる。イチョウの巨木は全国的にも珍しく、貴重なものとなっている。雄株で気根が乳房に様に垂れ下がり、婦人が祈願すると乳が出るという伝説がある。樹下には三宝荒神が祭られている。

Niou-mon(Deva gate)
仁王門 もともとは仁王堂と呼ばれ、17世紀後半（元禄10年改修）に元隆寺の西大門として建てられた建物。両脇には金剛力士像が祀られており、仁王尊堂との別称もある。現在では門という機能ではなく、健脚の神である仁王尊が祀られている御堂とされ、草履などが奉納されている。

Ruins of a Nanryu Ike(pond)
南龍池跡 かつては、龍が棲む伝説のあった大きな池であったが、現在は芦原の湿原となっている。昭和40年代までは湿田として利用されてきた。

Katsura Shimizu(spring)
桂清水 小菅七清水の一つとされている。風切峠超えて小菅に来た参拝者などが、この清水で渇きを癒し、小休止した場所でもある。この場所に限らず瑞穂には清水が多い。

Kazakira Touge(pass)
風切峠 神戸から小菅集落への峠を言う。馬頭観音はじめ多くの石造物の中に大風を切り穏やかな村にしようとした高さ74㎝の風の神の石祠がある。